

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース  
／中津 郁子

### ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

#### 1. 目標・計画

今年度は乳幼児の虐待防止にむけての調査研究を計画している。まず、保育所や幼稚園での乳幼児の実態や虐待防止に向けての職員の意識を把握したいと考えている。  
このようなテーマで科研の申請を考えたい。

#### 2. 点検・評価

乳幼児の虐待防止に関して、県内の保育所を対象としてインタビュー調査と質問紙調査を企画し実施した。現在、分析中である。  
このテーマでの科研の申請は準備が整わず出来なかった。また、何らかの形で外部資金を得ることも考えたが、実現出来なかった。

##### I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

#### 1. 目標・計画

臨床心理士養成コースは、若干定員割れしている。受験生を増やすために、大学院説明会の工夫や他大学の訪問等を考えていきたい。  
しかし、将来の質の高い臨床心理士を養成していくためには、ある程度の能力や資質を備えた大学院生を増やことも考慮していきたい。

#### 2. 点検・評価

学内の説明会へは出席し、本コースへの興味や関心が湧くように丁寧な対応を心がけ、コースの特徴等の説明に努めた。平成25年度の本コースでは定員以上が入学した。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ① 学生が主体的・積極的に授業に参加できるよう、毎年、小集団での演習や話し合い等を授業に取り入れている。また、ケースの指導については、個人の問題にも対応するため、出来るだけ個別に行なっていきたい。
- ② ロールプレイ等の実習に関しては、グループでの自主的・積極的な話し合いを促し、個々の特徴や課題が明確になるようにする。
- ③ 学生の悩み等には随時応じるとともに、自分の適性を知り将来の職業選択について考えていけるよう指導していきたい。
- ④ 地域臨床の場に参加し、心理士としての実践力をつけるために、様々な場の確保・提供を行う。

#### 2. 点検・評価

年度目標に掲げた、授業の工夫や学生への個別の対応等に関しては実施できた。また、今年度はFDでの授業公開で授業のあり方を検討し改善を行った。  
福祉関係の職場への就職情報や就職の相談に個別に対応した。また、学生の悩み等には個別に、その都度対応できた。心理士としての地域臨床の実践力をつけるための場を新たに開拓し、次年度から実習を依頼している。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ① 臨床の基礎的な力を養うために大学院生の保育実習を行なっているが、保育士と連携し子育て支援としての機能を備えたものとするため、昨年度取り組み方の改善を行なった。今年度も保育実習が実習生に与える影響と共に、子育て支援としてどのように役立っているかという視点からも研究を継続していきたい。
- ② 県内の保育所に質問紙調査及びインタビュー調査を実施し、要保護支援児童の実態や保育所の対応に関する調査を実施し研究する。
- ③ 保育士さん数名と子どもの生活に関する研究会を立ち上げ、調査研究等を行なう予定である。  
これらの研究に関して、研究発表や論文投稿を行なっていきたい。

#### 2. 点検・評価

保育実習に関しては、保育士さんとの話し合いを行い、保育士さんも子育て支援の効果を実感していることが伺えた。また、保護者への調査も行っており分析中である。また、保育実習のこれまでの取り組みをまとめて、教育実践研究に執筆した。

保育所への実態調査に関しては、インタビュー調査をまとめ、質問紙調査の分析を行っている。

今年度は大学の紀要や相談室紀要など、合計3本、論文を執筆した。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ① 今年度は、予算・財務管理委員会の委員として、大学運営に関わっていきたい。
- ② 心理・教育相談室の室長として、相談室の運営と改善に取り組んでいきたい。

### 2. 点検・評価

委員会の仕事及び、心理・教育相談室の室長として、大学運営に関わった。  
心理・教育相談室長としては、来談者にとってのより良い相談室になるように、相談室の人的及び物的等の環境を整えることに努めた。  
具体的には、心理療法に携わる大学院生の指導や来談者への対応を行った。また、相談室の規定の見直しを行ったり、倫理要項を新たに制定した。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

社会との連携について

- ① 今年度も、県や市の子育て支援関係会議の委員を引き受けて、地域社会に貢献したい。
- ② 子育てに関する講演会を引き受けたり、講習会を計画したりして子育て家庭の支援を行いたい。
- ③ 保育所や幼稚園の子育て相談員として、親子の話を聴き、子育て支援に役立ちたい。

### 2. 点検・評価

県や市の子育て関連会議の委員は継続して引き受け、地域社会に多少なりとも貢献できた。今年度は新たに、ホームスタート(訪問型の子育て支援)の講師を行ったり、ファミリーサポートセンターの会員のための講習会の講師を引き受けたり、小松島市幼稚園のあり方検討会の副会長として、幼稚園のあり方についての検討を行った。  
教育支援講師としては、年間8回、幼稚園での相談や講演等を行った。また、保育所や幼稚園の教育相談も継続して行った。主に乳幼児期の子どもを育てている親達を支援していくことに努めた。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

地域の子育て関連の委員会の委員や、乳幼児期の親子支援や相談活動など社会貢献に努めた。  
心理・教育相談室長として、その運営と改善に努めた。